

富谷市地震防災マップ

（揺れやすさマップ）

宮城県沖地震（単独型）

揺れやすさマップとは？

- この揺れやすさマップは、海溝型の地震である宮城県沖地震（単独型）を想定した場合の震度分布を、100メートルメッシュ毎に表現しています。
- この地震は、平均すると37年に一度、1978年の宮城県沖地震と同様の場所と模様で同じように繰り返して起きると考えられているものです。今後30年間の発生確率は99%といわれています。マグニチュード7.6を想定しています。
- なお、ここに示した震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均な揺れの強さです。地震の発生の仕方によっては、揺れはこれより強くなったり、弱くなったりすることがあります。

地震の大きさ＝震度とは何か？

地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すのが震度です。

震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定めた震度階級によって震度をあらわします。

従来は震度0から7までの8階級でしたが、平成8年10月からは震度6と5をそれぞれ6弱・6強、5弱・5強に分けて10段階に改正されました。

また気象庁が発表する震度は、従来は気象庁の職員が体に感じた揺れの強さや周囲の被害状況などから判定していましたが、最近は震度を観測するための「震度計」が設置されるようになり、この震度計の計測値（「計測震度」と言います。）を元に計算で震度をきめるようになっています。

＜凡 例＞				
震度階級	震度6強 ■	震度6弱 ■	震度5強 ■	震度5弱 ■
人 間	立っていることができず、はわないと動くことができない。	立っていることが困難になる。	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。	多くの人が、身の安全を圆うとする。一部の人は、行動に支障を感じる。
屋内の状況	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。据わりの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。
屋外の状況	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。握え付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停車する車が多い。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。

凡 例	
■	避難所
■	市役所
●	地区集会所
+	医療機関
×	交番
△	消防署
—	富谷市界